

健康にアイデアを

**meiji**

# 明治ホールディングス株式会社 会社説明会

2022年5月20日

取締役専務執行役員CSO 古田 純

# 本日の内容

1. 基本情報

2. 2023中期経営計画

3. 2021年度実績と2022年度計画

4. 株主還元

# 本日の内容

## 1. 基本情報

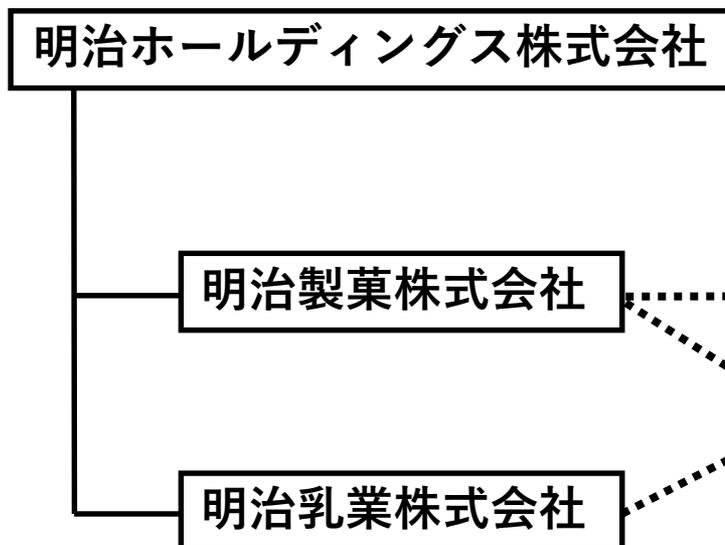
## 2. 2023中期経営計画

## 3. 2021年度実績と2022年度計画

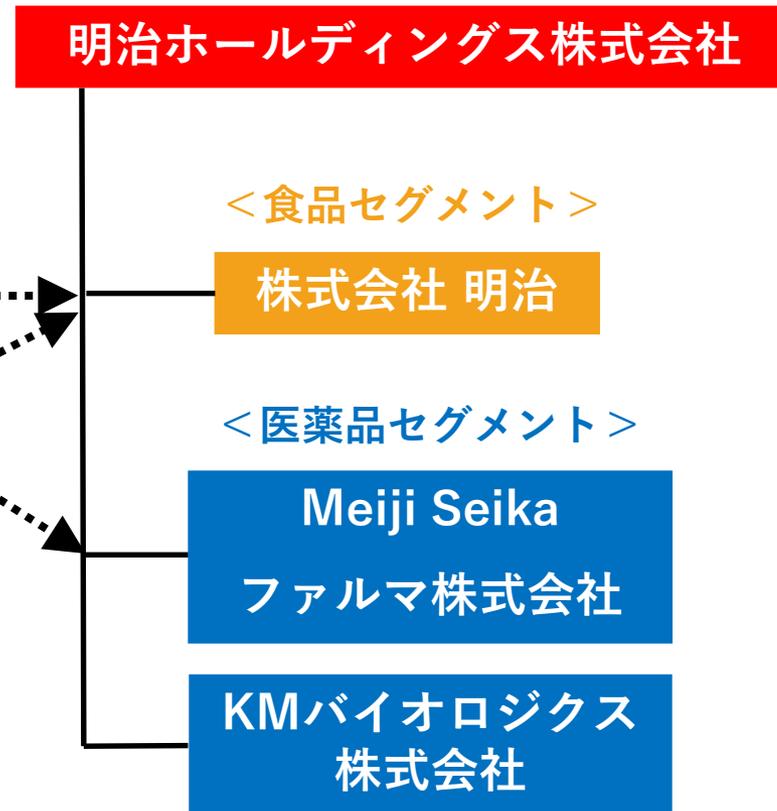
## 4. 株主還元

# 明治グループ

< 2009年4月～2011年3月末 >



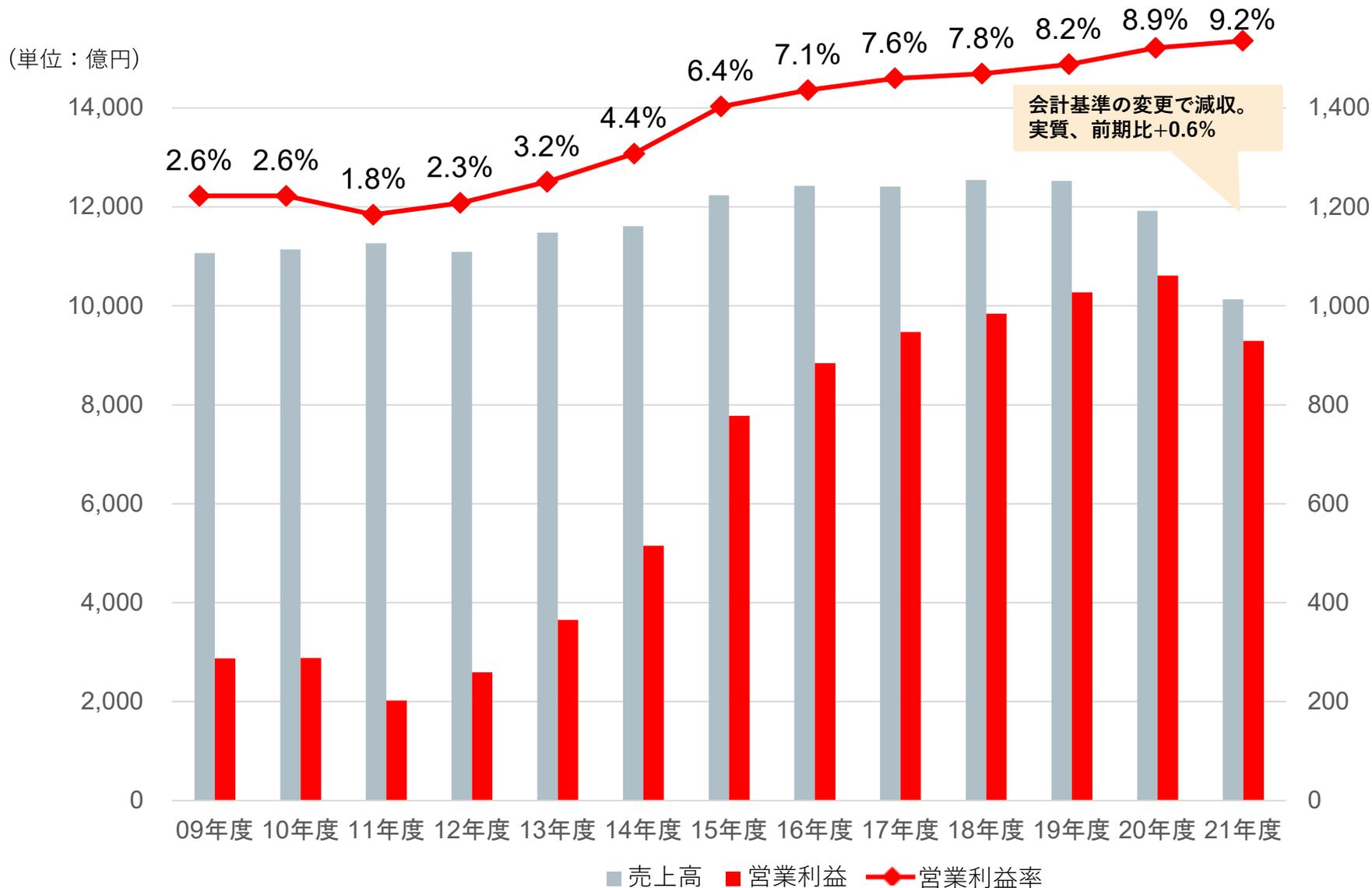
< 2011年4月～現在 >



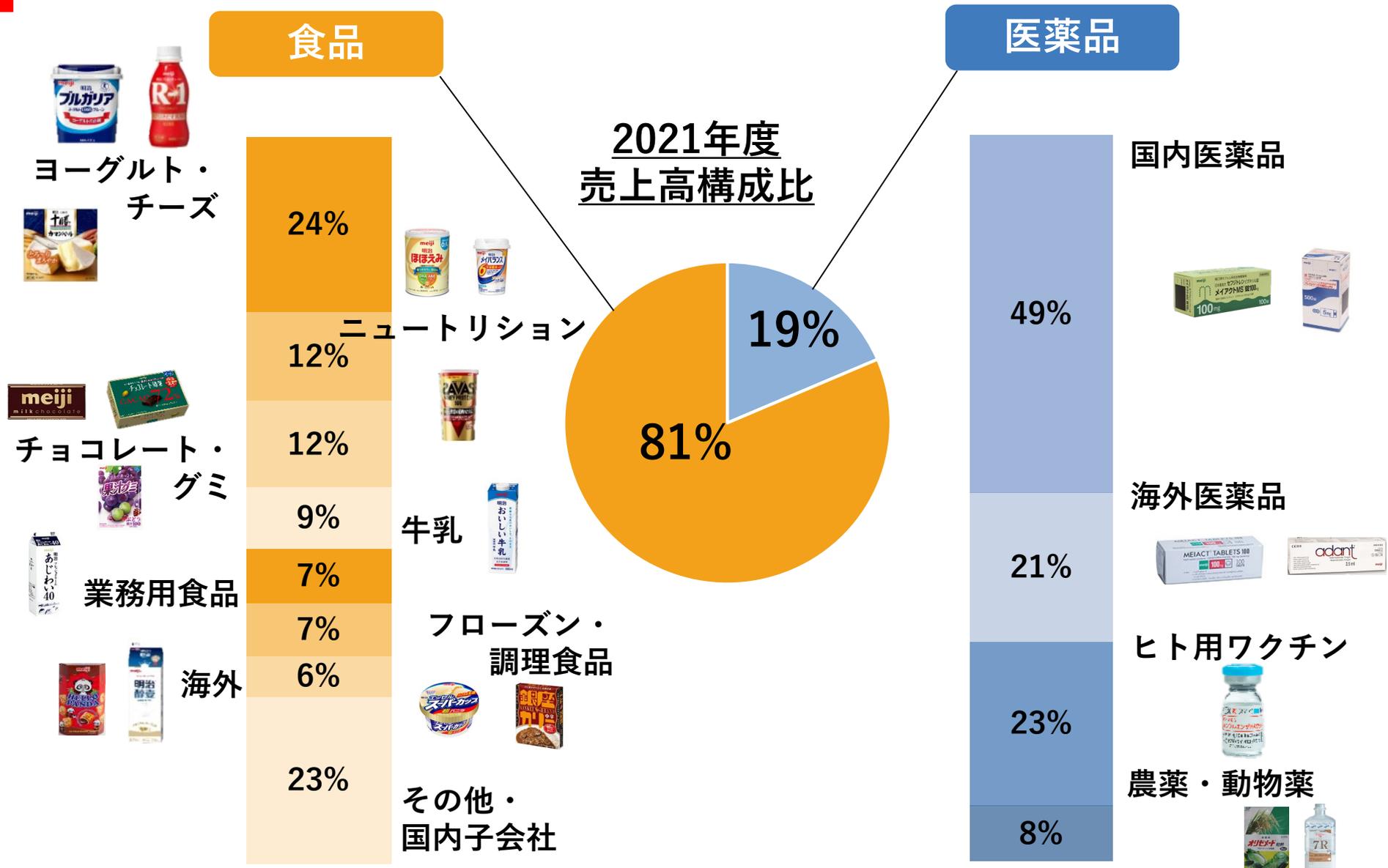
(2018年7月から連結子会社化)

◆2021年度 明治グループ業績  
 売上高 : 1兆130億円  
 営業利益 : 929億円

## 業績推移



# 事業ポートフォリオ



## 明治グループの海外展開状況

欧州  
医薬品：4社

中国  
食品：6社  
医薬品：4社

米国  
食品：3社

東南アジア・インド  
食品：3社  
医薬品：8社

オセアニア  
医薬品：2社

国内グループ会社数 **27**社  
(国内グループ従業員数11,811人)  
海外グループ会社数 **30**社  
(海外グループ従業員数5,525人)

2022年3月31日現在

# 新グループスローガン

健康にアイデアを  
**meiji**

健康にアイデアを  
**meiji**

# 本日の内容

1. 基本情報

2. 2023中期経営計画

3. 2021年度実績と2022年度計画

4. 株主還元

# 2023中期経営計画（21年度～23年度）

## コンセプト

### ※ 明治ROESG<sup>®</sup> 経営の実践

利益成長とサステナビリティ活動の同時実現

## 重点課題

### 1. 事業戦略

食品セグメント

- ①コア事業の成長力の回復
- ②海外展開の強化

医薬品セグメント

- ①Meiji Seika ファルマ・KMバイオロジクス  
の一体運営推進（ワクチン事業の強化）
- ②CMO/CDMO（医薬品製造受託/医薬品製造開発受託）  
の強化

全体

新領域への挑戦

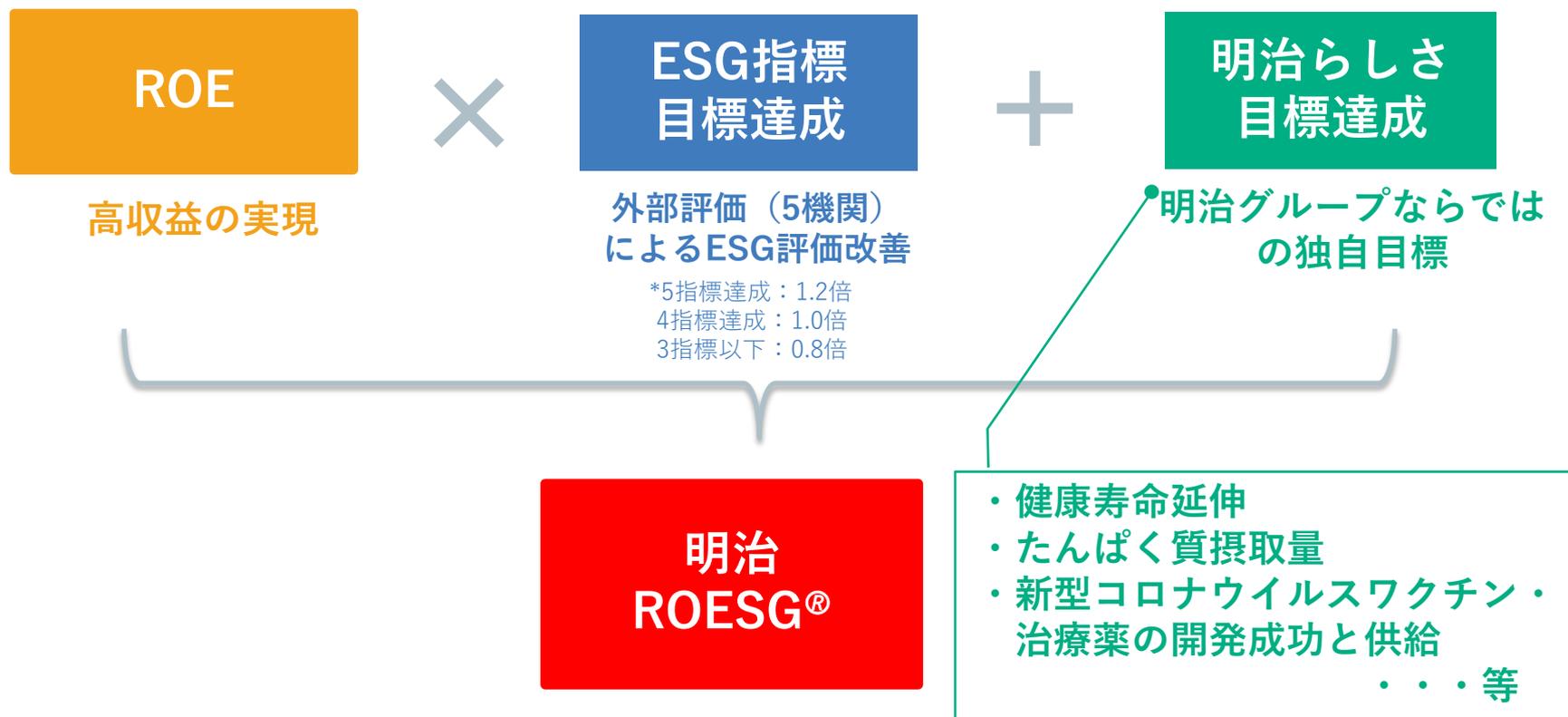
2. ROIC活用による経営管理体制強化（資本効率の向上）

3. 成長投資の継続と強固な財務基盤構築の両立

4. サステナビリティ2026ビジョンの着実な実行

※「ROESG」は一橋大学教授・伊藤邦雄氏が開発した経営指標で、同氏の商標です

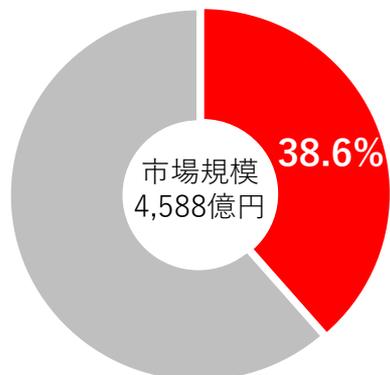
## 利益成長とサステナビリティ活動の同時実現



# 食品：主要製品と市場シェア

## ヨーグルト

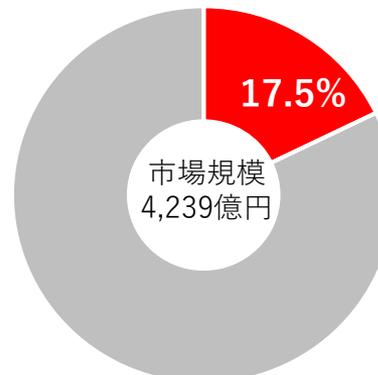
国内市場シェア 1位



※シェア（2021年度）出典：インテージ社SRI+

## 牛乳

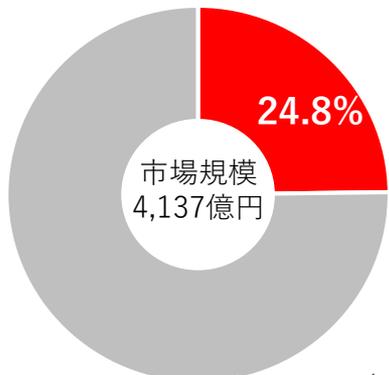
国内市場シェア1位



※シェア（2021年度）出典：インテージ社SRI+

## チョコレート

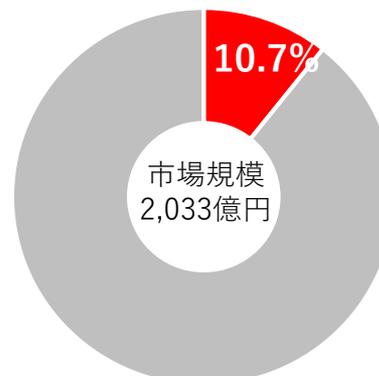
国内市場シェア 1位



※シェア（2021年度）出典：インテージ社SRI+

## チーズ

国内市場シェア 3位

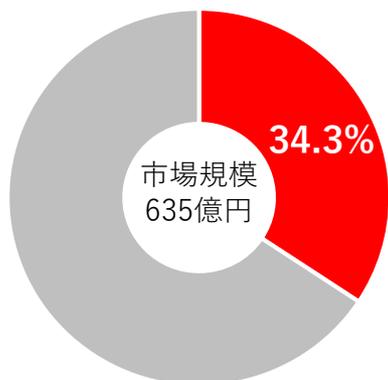


※シェア（2021年度）出典：インテージ社SRI+

# 食品：主要製品と市場シェア

## プロテイン（粉末・顆粒）

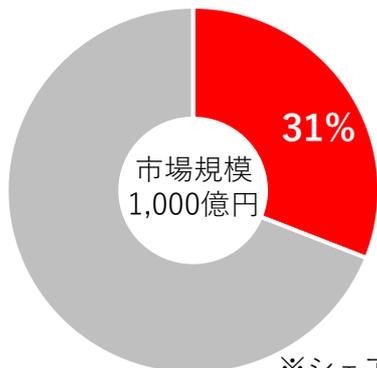
国内市場シェア 1位



※シェア（2021年度）出典：当社調べ

## 流動食（市販向け除く）

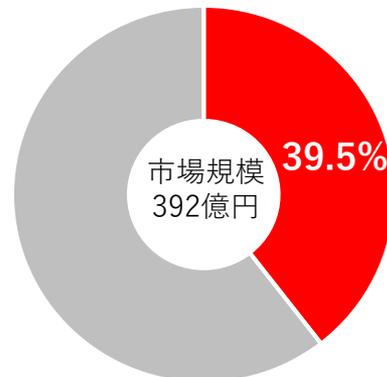
国内市場シェア 2位



※シェア（2021年度）出典：当社調べ

## 乳幼児ミルク

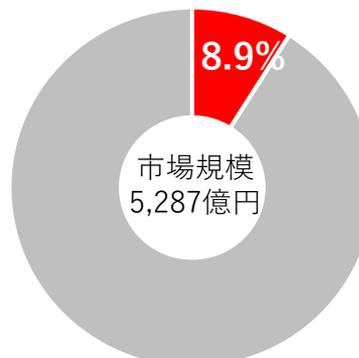
国内市場シェア 1位



※シェア（2021年度）出典：インテージ社SRI+

## アイスクリーム

国内市場シェア 7位



※シェア（2021年度）出典：インテージ社SRI+

# 食品：海外展開の強化

## ● 中国

- 当社が強みを持つ商品群を展開  
(牛乳、ヨーグルト、菓子、アイス、ザバス)
- 生産能力の大幅拡大



2023年度までに3つの工場を新設し、展開エリア拡大と共に売上を伸ばす

## ● 東南アジア

- タイ、シンガポール、インドネシア等で、  
それぞれの国に応じて、乳製品や菓子、栄養食品を展開



## ● アメリカ

- チョコスナック市場で当社の強みを活かして展開



## ● ヨーロッパ

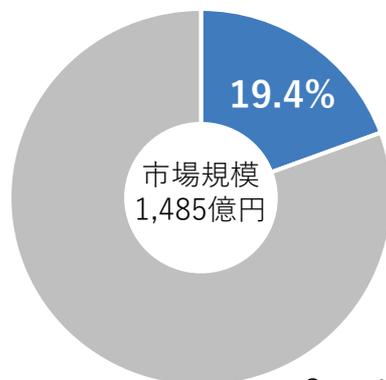
- ダノン社と提携し、キューブタイプ粉ミルクのテスト販売実施



# 医薬品：感染症領域への経営資源集中

## 全身性抗菌剤

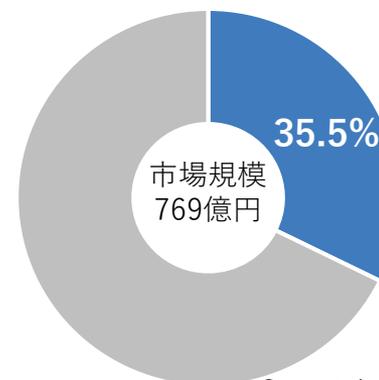
国内市場シェア 1 位



Copyright©2022IQVIA  
市場規模・シェア（21年度）出典：  
IQVIA医薬品市場統計 JPM2022年3月MATを  
もとに作成。市場の範囲は当社の定義による  
※無断転載禁止

## インフルエンザワクチン

国内市場シェア 1 位



Copyright©2022IQVIA  
市場規模・シェア（21年度）出典：  
IQVIA医薬品市場統計 JPM2022年3月MATを  
もとに作成。市場の範囲は当社の定義による  
※無断転載禁止

## 新型コロナウイルスワクチンの開発状況

■成人40歳以下第3相臨床試験、小児第2/3相臨床試験を  
2022年4月に開始

■未接種の成人向けと18歳未満の小児向けで2022年度内の供給を目指す

# 医薬品：ワクチン事業

ワクチンの種類	政府が確保しているワクチン	特徴	安全性	有効性	開発期間
不活化ワクチン	なし	大量に培養したウイルス、細菌又は毒素を、薬剤等で処理して感染性や毒性をなくしたものをワクチンとして利用	◎	○	○
mRNAワクチン	ファイザー モデルナ	ウイルス抗原の設計図であるmRNAそのものをワクチンとして利用	○	◎	◎

# 「栄養ステートメント」の制定

**Mind 01** 乳、カカオ等の自然素材を生かし、毎日の健康を支える“栄養”を提供します。

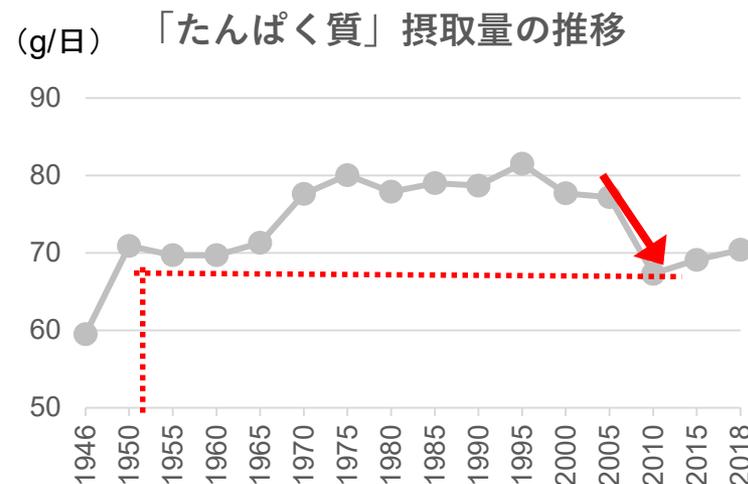
**Mind 02** さまざまな『+1（プラスワン）の価値』で、心を満たす“栄養”を提供します。

**Mind 03** “栄養”で、各国・各地域の生活者それぞれの人生を豊かにするお手伝いをします。



# 明治らしい独自価値の提供

- ✓ 現代人のたんぱく質摂取量は1950年代と同水準まで低下
- ✓ 「1日+10g」のたんぱく質摂取を提案日常の様々なシーンで補給できる明治ならではのラインアップで展開
- ✓ 他の食品メーカーと協業し、ラインアップを拡充して低栄養問題の解決へ



2020年春 **14** S K U → 2021年度末 **23** S K U

出所: 厚生労働省

meiji

ヤマザキ

伊藤ハム

yonekyu

MARUHA NICHIRO  
海といのちの未来をつくる



# 健康価値領域での新たな挑戦

「抗老化」と「免疫増強」の2つのテーマで食・薬のシナジーを追求  
新たな健康価値の提供を目指す



## 食品

- ・ 栄養学の知見
- ・ 乳・乳酸菌・カカオの研究
- ・ 栄養設計技術 など

## 医薬品

- ・ 薬理学の知見
- ・ 合成技術
- ・ 微生物・バイオ技術 など

新たな  
健康  
価値

- ・ 他社や大学など社外の知見を積極的に取り入れ

オープンイノベーション

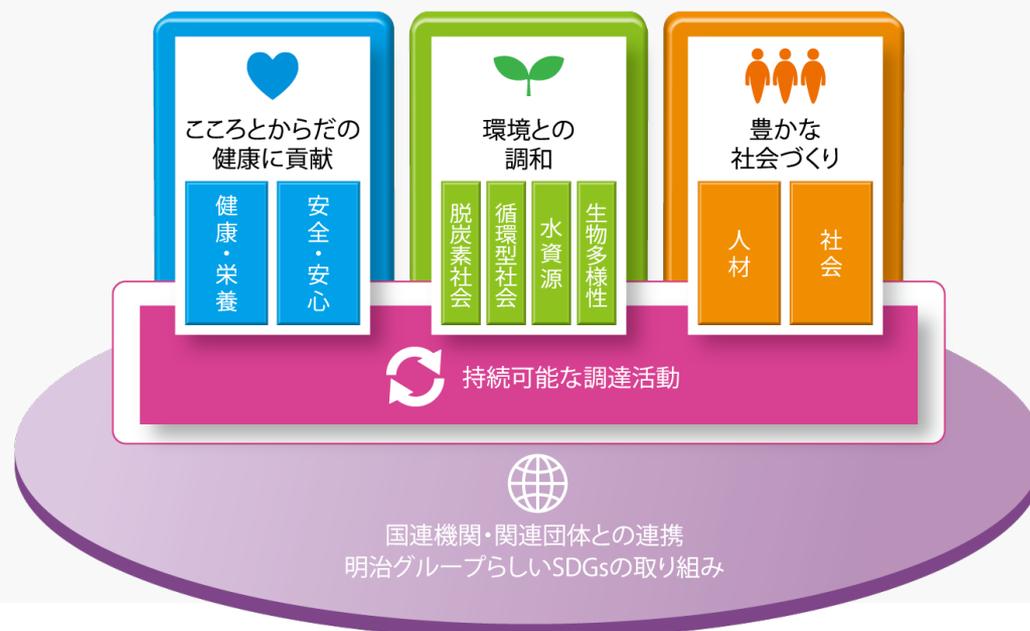
# ミッション & ビジョン

## Mission

明治グループのNEXT100にむけて、  
世界の人々が笑顔で健康な毎日を過ごせる未来社会をデザインする

## サステナビリティ2026ビジョン

明治グループは、食と健康のプロフェッショナルとして  
事業を通じた社会課題の解決に貢献し、人々が健康で安心して暮  
らせる「持続可能な社会の実現」を目指します



# 明治グループ長期環境ビジョン

## Meiji Green Engagement For 2050

明治グループが地球とのエンゲージメントを通じて将来にわたって自然との共生を図ることで、持続可能な地球環境の実現に貢献



### 気候変動

サプライチェーン全体で  
カーボンニュートラル



### 水資源

原単位で水使用量半減  
ウォーターニュートラル



### 資源循環

ゼロエミッション



### 汚染防止

環境汚染ゼロ

# 本日の内容

1. 基本情報

2. 2023中期経営計画

3. 2021年度実績と2022年度計画

4. 株主還元

## 2021年度 連結決算のハイライト

(億円)	20年度 通期実績	21年度 通期実績	前年同期比
売上高	11,917	10,130	△15.0% △1,786
(参考：売上高)	10,071*	10,130	+0.6% +59
営業利益	1,060	929	△12.4% △131
営業利益率	8.9%	9.2%	+0.3pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	656	874	+33.3% +218

- 収益認識基準適用の影響を除いたベースの売上高は前期並み  
食品はほぼ横ばい、医薬品は増収
- 営業利益は、食品・医薬品ともに減益
- 当期純利益は大幅増益。関係会社株式や投資有価証券の売却により  
特別利益は増加

## 2023中期経営計画の進捗：明治ROESG®



評価指標	20年度	21年度実績	21年度目標
MSCI ESG Ratings	BB	BBB	BBB
DJSI	80パーセンタイル	86パーセンタイル	84パーセンタイル
FTSE4Good	3.0点	3.0点	3.2点
CDP (Climate Change)	A-	A-	A-
CDP (Water Security)	A-	A	A-

- 5つのESG評価指標のうち、4指標で目標を達成
- 水資源保護の取り組みは最高評価であるAリスト企業に選定

## 2023中期経営計画の進捗：明治ROESG®



項目	21年度時点の進捗	23年度目標
健康寿命延伸	+0.56年 <sup>*1</sup>	+1年 <sup>*1</sup>
たんぱく質摂取量	71.4g/日 <sup>*2</sup>	75g/日
インフルエンザワクチン接種率	65.6% <sup>*3</sup>	60%
従業員エンゲージメントスコア（満足度）	偏差値B	偏差値A
健康志向食品、栄養付加価値型商品、超高齢化社会に貢献する商品の売上伸長率	△2.6% <sup>*4</sup>	+10%以上 <sup>*4</sup>
新型コロナウイルスワクチン・治療薬の開発成功と供給	開発中	開発と供給

- 明治らしさ目標は23年度の目標水準に向けて取り組みを推進

\*1：2016年比（男性72.14歳／女性74.79歳） \*2：2019年（最新データ）

\*3：2020年度（最新データ）、65歳以上の定期接種対象者ベース \*4：2020年度比

# 取締役会の実効性・透明性の向上

- **22年度～ 取締役会の第三者評価を導入  
(3年に1回程度実施)**
- **22年6月株主総会  
取締役選任議案：社外取締役1名を増員**

## 社外取締役候補

**ピーター D. ピーターセン 氏**  
NPO法人ネリス代表理事

## プロフィール

1967年デンマーク生まれ。長年にわたりサステナビリティ経営に携わり、多くの日本企業のサステナビリティ戦略支援を行ってきた。

現在は、世界の若手次世代リーダーを育成する特定非営利法人ネリスの代表理事を務めると同時に、大学院大学至善館教授、丸井グループ社外取締役を務める。



# 2022年度 連結計画

(億円)		上期計画		下期計画		通期計画	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比
連結	売上高	5,070	+1.3% +62	5,285	+3.1% +161	10,355	+2.2% +224
	営業利益	410	△18.5% △93	515	+20.9% +89	925	△0.5% △4
	親会社株主に帰属する当期純利益	310	△15.4% △56	315	△38.0% △193	625	△28.5% △249
食品	売上高	4,140	+1.2% +49	4,260	+2.2% +89	8,400	+1.7% +139
	営業利益	341	△13.7% △54	418	+15.0% +54	760	+0.0% +0
医薬品	売上高	930	+1.0% +9	1,029	+7.4% +70	1,960	+4.3% +80
	営業利益	77	△31.2% △35	107	+45.6% +33	185	△0.8% △1

- 食品・医薬品ともに増収
- 営業利益は通期では前期並みだが、上期は大幅減益の計画
  - ✓ 食品はコストアップ対応が5-6月以降に本格化
  - ✓ 医薬品は、前年上期のコロナワクチン製造受託収入が減少
- 当期純利益は、前期に特別利益が大幅に増加した反動で減益

# 食品：コストアップへの対応

## 22年度 通期営業利益への影響

- ・ 原材料コスト増 約125億円
- ・ エネルギーコスト増 約15億円

- 
- コスト削減に加えて、価格改定や商品政策（容量変更等）でコストアップをカバーする計画
  - 消費者の購買意欲が低迷する中、数量減を最小限にとどめるための施策を並行して実施
  - ロシア・ウクライナ情勢の変化などにより原材料高や円安はさらに進行。状況を注視し、必要ならば追加的な対策も検討

# 2023中期経営計画の達成に向けて

コア事業の成長力の回復が最重要課題  
次の成長ドライバーの育成にも着実に取り組む

## 22年度のポイント

### ● コア事業の成長力の回復

- 特に ✓ プロバイオティクス、ヨーグルト
- ✓ 国内医薬品

### ● コストアップへの対応

- ✓ 原材料コスト、エネルギーコスト、急激な円安進行
- ✓ コスト低減の徹底、価格改定・容量変更の定着

### ● 次の成長領域の育成

- ✓ 海外展開、新規ワクチン開発
- ✓ 新領域への挑戦、ベンチャー企業との取り組み

### ● サステナビリティの取り組み加速

# 本日の内容

1. 基本情報

2. 2023中期経営計画

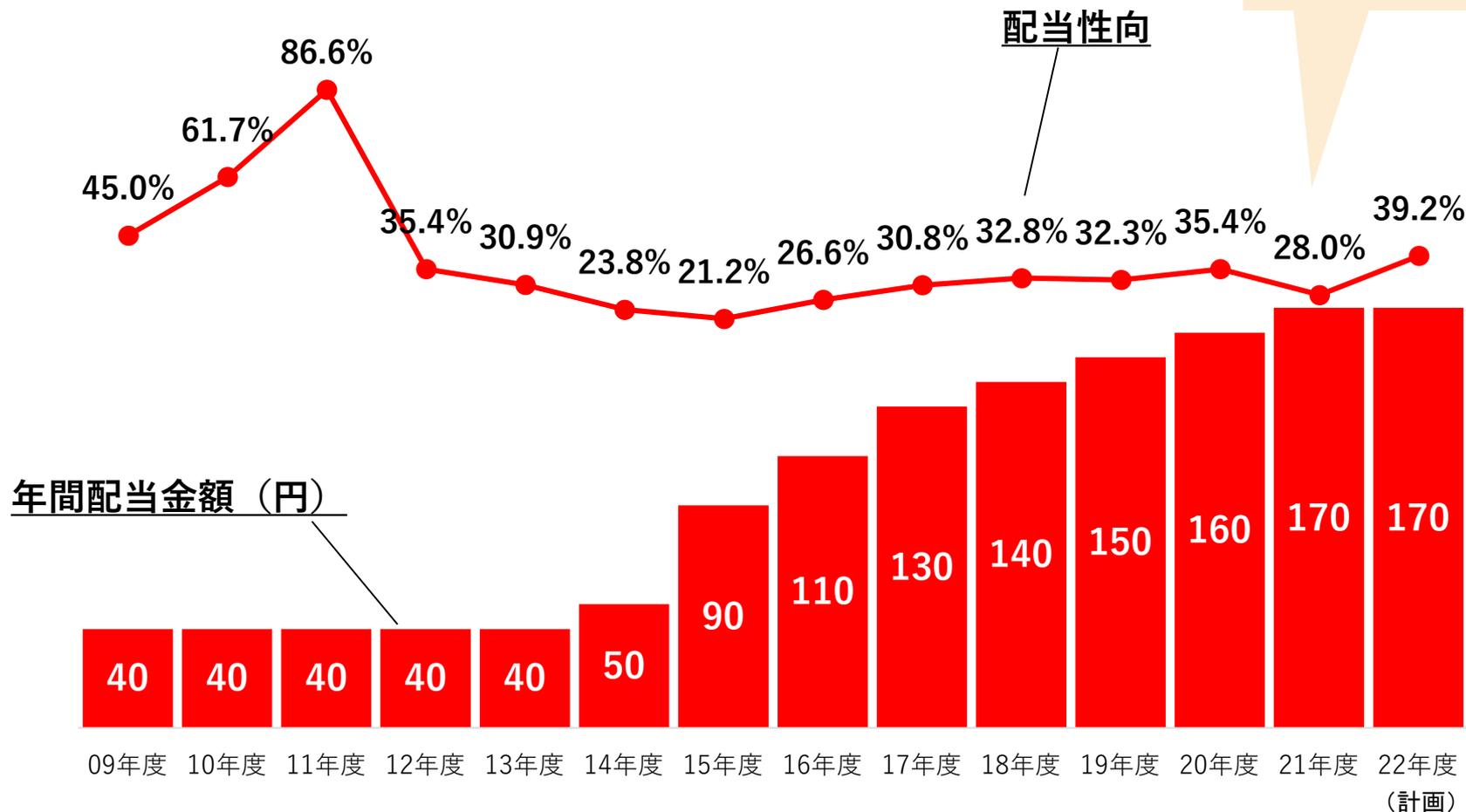
3. 2021年度実績と2022年度計画

4. 株主還元

# 株主還元

- 2023年度までに連結配当性向40%水準に引き上げ
- 自己株式の取得を実施 300億円

農薬事業譲渡の影響を除くと配当性向37.8%



2015年10月1日で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しており、上記数値はこの株式分割を反映しています

# 株主優待制度

100株以上の株式をご所有の株主さまを対象に、ご優待品を10月末ごろにお届け（基準日3月31日）

ご所有株式数	優待品
100株以上	明治グループ製品詰め合わせ 2,000円相当
500株以上	明治グループ製品詰め合わせ 3,500円相当
1,000株以上	明治グループ製品詰め合わせ 5,000円相当



2021年度の優待品  
(500株以上3,500円相当)

株主さまのご意志により、同等のグループ製品を福祉団体などへご寄贈いただくことも選択できます

# 健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。